

南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報 (急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第 38 週 2025 年 9 月 15 日 ~ 2025 年 9 月 21 日

今週のコメント

南丹保健所管内では、インフルエンザが流行レベル継続中です。

また、水痘が警報レベル解除になりました。

京都府全体(京都市以外)では、伝染性紅斑(リンゴ病)が警報レベル解除になりました。

2025 年第 38 週の報告です。

○新型コロナウイルス感染症の定点当たりの報告数は南丹 6.75(前週 7.75)、京都府 7.77(前週 8.09)となっています。

○インフルエンザの定点当たりの報告数は南丹 3.50(前週 1.25)、京都府 1.23(前週 1.54)となっています。

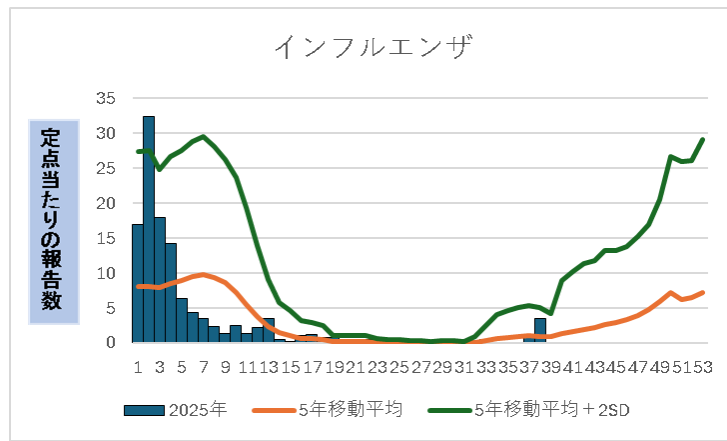
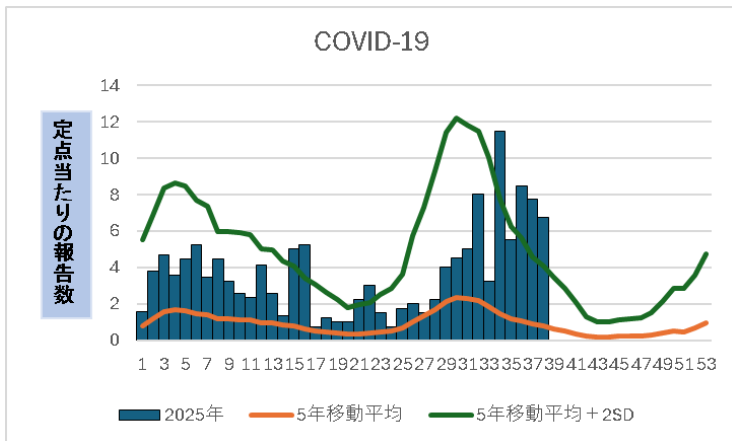
○感染性胃腸炎の定点あたりの報告数は南丹 3.00(前週 0.50)、京都府 2.81(前週 3.33)となっています。

○全国的に百日咳(全数報告疾患)の流行が継続しており、府内でも報告が続いています。第 38 週においては南丹保健所管内で 0 件(前週 0 件)、府内で 16 件(前週 13 件)報告されました。長引く咳には注意し、乳幼児は予防接種を確実にいきましょう。

京都府の百日咳に関する情報は[こちら](#)を確認して下さい。

百日咳に関する情報は[こちら](#)を確認して下さい。

今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



※横軸は週数 縦軸は定点あたりの報告数を示しています

1 『5年移動平均』は、過去5年間の平均値の変化を表しています。

2 『5年移動平均+2SD』は、過去5年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

9/24~9/30 は「結核・呼吸器感染症予防週間」です。

「結核・呼吸器感染症予防週間」では、結核・呼吸器感染症に関する正しい知識の普及啓発を推進しています。

呼吸器感染症には、新型コロナウイルス感染症や季節性インフルエンザ、マイコプラズマ肺炎などがあります。

結核も呼吸器感染症のひとつです。結核の症状は、長引く咳、たん、微熱等風邪のような症状で、初めは目立たないことが多く、特に高齢者は気づかないうちに進行することがあります。結核を発症しても、早期に発見できれば重症化を防げるだけでなく、家族や友人等への感染拡大を減らすことができます。咳やたんなどの症状が2週間以上続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

呼吸器感染症を予防するためには、手洗い、手指消毒、マスクの着用を含む咳エチケット、換気が基本です。また、食事・睡眠を十分にとり、適度な運動により免疫力を高め、感染症に負けない身体をつくりましょう。

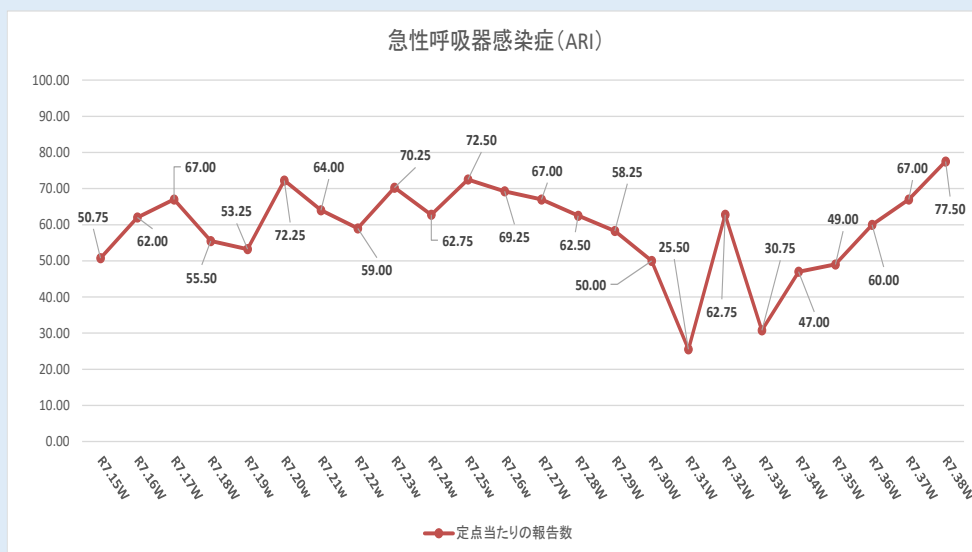
各定点把握疾患 発生状況(南丹管内)

	警報レベル		注意報	R7.38w		前週定点 (参考)
	開始	終息		定点当たり 報告数	前週比	
インフルエンザ*	30	10	10(流行1)	3.50	↗	1.25
新型コロナウイルス感染症				6.75	↘	7.75
RSウイルス感染症				0.00	→	0.00
咽頭結膜熱	3	1		0.50	→	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		1.00	↘	1.50
感染性胃腸炎	20	12		3.00	↗	0.50
水痘	2	1	1	0.00	↘	1.50
手足口病	5	2		0.00	↘	0.50
伝染性紅斑	2	1		0.00	↘	1.00
突発性発しん				0.00	→	0.00
ヘルパンギーナ	6	2		1.00	↗	0.00
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	↘	2.00

急性呼吸器感染症(ARI)について

急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第38週報告数は310件(定点当たりの報告数:77.50)でした。[京都府の情報はこちら](#)



最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

・[京都府感染症情報センター](#)

更新時期:(原則)毎週木曜日 14時 前週分の状況を更新

・[感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)